

スポーツ用語 面白い旅

筑波大学名誉教授
元流通経済大学スポーツ健康科学部長

伊與田 康 雄

経歴: 北海道出身。
昭和45年4月～北海道大学助教授
昭和53年5月～筑波大学助教授
平成3年6月～15年3月筑波大学教授
平成18年4月～流通経済大学スポーツ健康科学部長

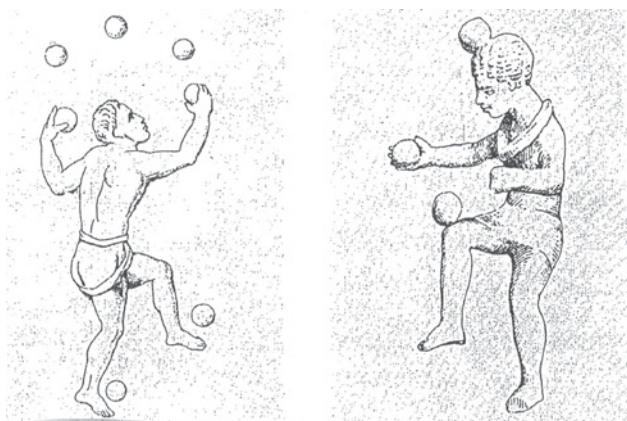
2019年にRW (ラグビーワールドカップ)、2020年にオリンピック・パラリンピックが我が国で行われます。今から胸を熱くしている人も多いでしょう。

スポーツ用語の面白い旅に出て見ませんか。順不同でいい加減な伝聞もあります。スポーツ用語は、仲間内だけで使っていた^{かくしことば}隠語が、市民権を持って広く使われるようになった言葉も多いようです。

■スポーツ

スポーツの起源はいつでしょう。ボール遊びを含むスポーツは石器時代から行われていたとの記述があります。エジプトにあるベニハッサン村の岩窟墓の壁画には、当時のスポーツ数種類の絵が描かれています。ベニハッサンはナイル川東岸に位置し、古代エジプト中王国時代、BC20世紀頃栄え、39基の岩窟墓が発見されています。(図1)

「スポーツを日本語にきなさい。」は、意外に難題で身体運動、身体活動、競技と訳してもピンと来ません。sport, sportsと書きますが一般には



■図1 ベニハッサン・古代エジプト中王国時代の岩窟墓地の壁画 エジプト大使館 環境局

sportsと記します。スポーツは色々なスポーツ種目で成り立っていますから"s"が付きます。

語源は、ラテン語のde-portare, 中世英語のdisporten, 中世フランス語のdisporterと変化し16世紀にdeがドロップし英語のsport, sportsとなります。

■コーチ

大きな空港へ行くとCoachと書いた大きなバスが走っています。コーチはハンガリーのkocs (コチ) という小さな町の名に由来します。コチは四頭引き四輪大型の乗合馬車を走らせた最初の街でした。「人を目的地に運ぶ道具」が、コーチであると見たイギリス人学生が、スポーツ指導者をコーチと呼ぶようになったようです。

■コート、グラウンド

テニス、バレー、バスケットボールなどでは試合場をコート、サッカーやラグビー、クリケットなどではフィールド、グラウンド、ピッチなどと呼びます。

中世フランスでラケット・スポーツの原型と言われるジュ・ディ・ポーム (Jeu de paume) が、特に修道院の中庭で盛んに行われました。中庭は裁判の行われる処、即ち法廷 (court) でもあります。2階の回廊には沢山の人が集まり、ボール遊びや裁判を見守ります。回廊には絵画や彫刻等の美術品が飾られギャラリー (gallery) と呼ばれました。ギャラリーは観覧席、画廊、美術館で日本語・日常語として使われています。

■サッカー (FA 1863年成立)

Football Associationの決めたルールに従って行うボールゲームがAssociation football, Rugby Unionが決めたルールに則って行うボールゲームがRugby footballです。

Association footballはAssoc football となり、アソックのaがドロップしてssoc, ssocをプレーする、あるいはプレーする人の意味から、soccerとなりました。

■ラグビー (RU 1871年成立)

ラグビーは、イングランド中部のラグビーという町のパブリックスクールpublic school: Rugby Schoolが発祥の地、ラグビーフットボールとなりました。

ある日、スクールのサッカーの試合中に、勇敢にもボールを腕で抱えゴールへ向かって走り出した少年がいました。少年の名は、William Web Ellis。時は1823年、秋のことでした…。と言うのは「事実ではありません」。これは後にラグビー校のOBが創った「エリス伝説」といわれています。しかし今日では、誰もが認める伝説です。

■サイドライン、タッチライン

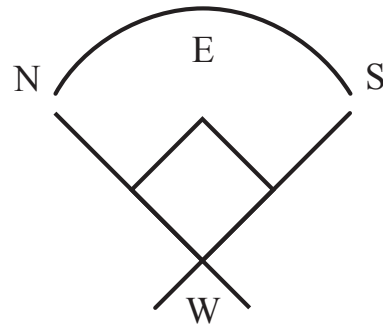
サッカーもバレーボールも長辺のラインをサイドラインと云いますが、ラグビーではタッチラインと呼びます。長辺のライン際まで詰めかけていた観客が、ボールがアウトオブバウンズになったときに、ボールにタッチするのでこの言葉から生まれました。

■ノーサイド

ラグビーでは、試合終了をノーサイドno-sideと云います。sideは「側」ですが、teamと同義で、チームが無くなり「みんな、お友達」がノーサイドの精神です。オフサイドはチームを離れた人がプレーするから反則、オンサイドはOKとなっています。

■サウスポー

サウスポーは、そのまま訳すと「南の手」です。左投げ投手を指しますが、打者が西日を背に受けて打席に立つようにダイヤモンドを設計すると図のようになります。シカゴの球場が最初に設計したと言われますが、異説もあるようです。(図2)



■図2 ダイヤモンド

■ゼッケン

ゼッケンは、ドイツ語の「覆う」という意味の“Decken” (デッケン)、馬術や競馬において、馬の鞍の下に敷く番号が書かれた毛布を指しました。明治41年北海道大学に赴任したドイツ語講師ハンス・コーラー氏がアルパインスキーを持ち込み学生にスキーを教えました。この頃の学生が馬の腹帯のデッケンをゼッケンと呼び、一般に使われるようになりました。「ゼッケン・ナンバー00番」などは懐かしい言葉ですが、今はnumber、bibが一般的です。

■ハット・トリック

hat trickはサッカーでは1人が3点得点することをいいますが、手品師が帽子から次々に鳩などを取り出す様から生まれた言葉のようです。元はクリケットで使われていた言葉です。

まだまだ面白い言葉があります。新しいスポーツが出来る、ルールが変わる、技が変化する度にスポーツ用語も変化し、新しい言葉が出来るでしょう。